



「いま『協同』が創る2019全国集会 in kanagawa」(2019かながわ協同組合のつどいと連携開催)が、11月29-30日に無事に開催され、2日間で延べ1,600人を超える参加があった。

「であうつながる いのち～ちがいがおりなす豊かな未来」をテーマに、フォトジャーナリスト安田菜津紀さんの講演では紛争地帯や被災地の子どもたちの写真から一人ひとりの生活やいのちに想いを馳せた。パネルディスカッションでは、外国人の当事者であり様々な問題と向き合ってきた斐安さん(かながわ外国人すまいサポートセンター)、自らも不登校の経験があり新たな価値の創造へ挑戦している山本菜々子さん(創造集団440Hz)、環境問題に対して社員ひとり一人が自分事にする取り組みを行っている大川哲郎さん(大川印刷)らのお話を、加藤彰彦さん(沖縄大学)によるコーディネートでテーマを深めた。2日目は、20の分散会に分かれ、90名を超える登壇者が報告しお互いを知り、学び、協同を深め合った。

実行委員会にはJA神奈川中央会、神奈川県生協連、神奈川県漁連、パルシステム神奈川、ワーカーズコレクティブ連合会、ワーカーズコープキュービック、ワーカーズコレクティブ協会などが毎回実行委員会に参加し、1年以上にわたる期間を経て、ともにつくる集会となった。

11月8日に日本生協連が開催したコー

プセミナーでは、「ワーカーズコープの主体性を事例から学ぶ」と題した協同労働の学習会が開催され、まずワーカーズコープのしくみや協同労働や法制化の内容について田嶋専務が講演。また、これまで労協が全国の生協、医療生協で業務委託を受けた実績と、そこから生まれている多様な仲間が働く実践、生協の組合員と共に畑や子ども食堂やフードバンクなどに取り組んでいる事例を紹介。最後に、今後生協の組合員や職員が協同労働を学び、主体性を高め、組合員や地域の課題へ挑戦するための議論を行った。

労協連の協同労働推進会議も東海・関西(11/5-6)、北海道・東北(11/7-8)で開催され、センター事業団・地域労協・地域高齢協が地域ごとに集い、互いに学び合いながら、地域のなかで協同労働や協同組合をどう深め広げていくかの検討を行った。他の協同組合や協同を求める方々との出会いをどう作っていくのが課題であり、プラットフォームづくりや学習会など継続した活動が必要である。

現在法案が成案され、11月27日に与党協同労働の法制化に関するワーキングチームで、翌日28日には与党政策責任者会議で承認され、いよいよ各党での合意形成に入る段階だ。法制化を実現するために、改めて全国で自分たちの実践を通して協同労働を深め、地域に発信していきたい。